

□大根のマルチ引き(⑥列目)

- ・施肥：化成8号、石灰、アツミン 各1杯(約200g)
- ・マルチ9227中をひく

マルチ引き手順 自信がない方は講習会で指導します

- ①採寸し、うね両端に間縄を引く
- ②間縄の内部に施肥した後、レーキで肥料をうね全体に混ぜる
- ③うねを塩ビパイプ等を使って平らにする
(凸凹にすると水が溜まります)
- ④うね全周を掘る

通路部の30cmは確保ください、

慣れないうちは角スコップを使うと楽です。

注1.土はうねに垂直に掘り、土はうね外側によける

注2.4隅部をしっかりと掘る

- ⑤マルチを覆い、左右に引っ張りながら溝に埋め込む
しわが出ないようにマルチの縁をしっかりと押し込む。

※工程⑤の後の微調整

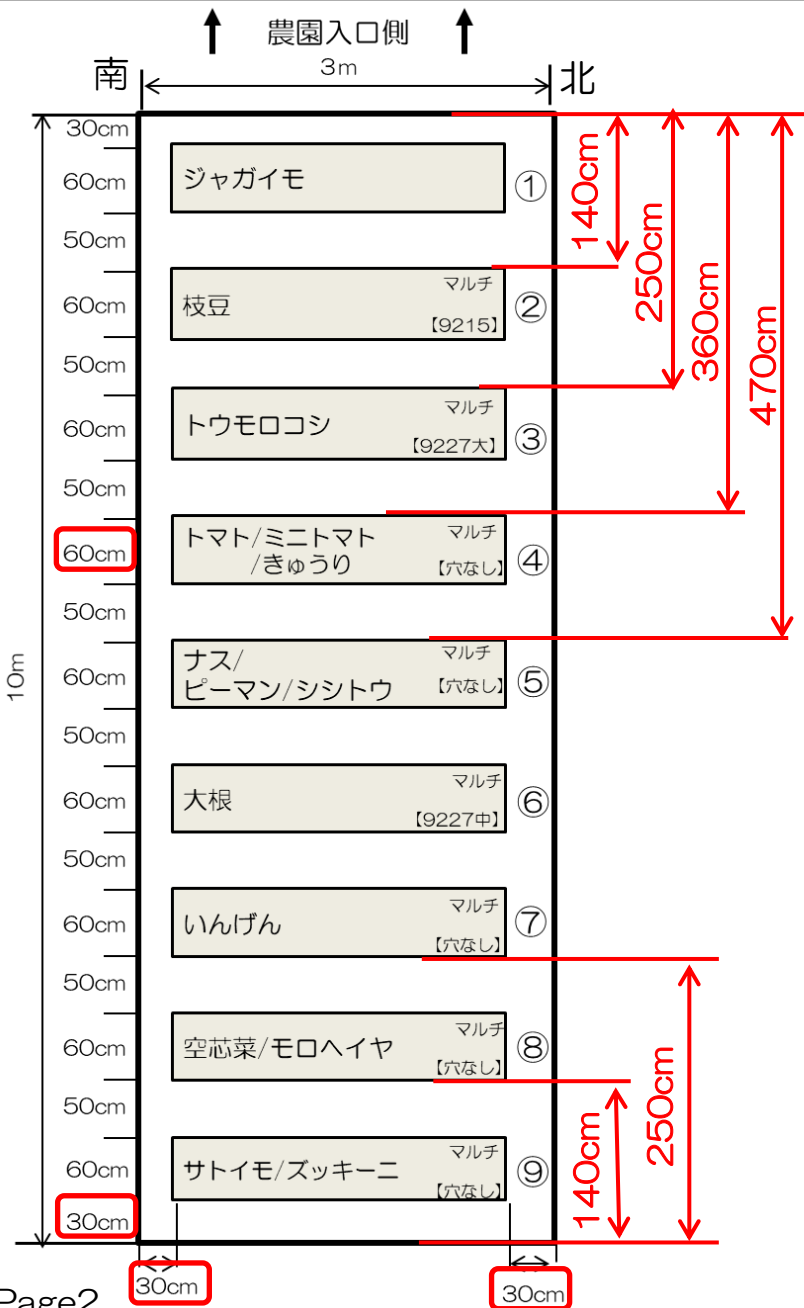
隅部は溝をしっかりと掘りマルチを埋め込みます



30cm分が通路となります

間縄
作業後は片付けます

最後にマルチの縁を押し込むと
きれいに張れます



⑥大根以降のマルチひきです
これ以降肥料は全て同一です **マルチの種類に注意**
優先順位が高い順番に記載しています

□トウモロコシのマルチひき(③列目)
・施肥：野菜名人、石灰、アツミン 各1杯(約200g)

・マルチ9227大をひく

3/28まで

□枝豆のマルチ引き(②列目)

・施肥：野菜名人、石灰、アツミン 各1杯(約200g)

・マルチ9215をひく

□いんげんのマルチ引き(⑦列目)

・施肥：野菜名人、石灰、アツミン 各1杯(約200g)

・穴なしマルチをひく

4/4まで

□トマト/きゅうり(④列目)

・施肥：野菜名人、アズミン、石灰 各1杯(約200g)

・穴なしマルチをひく

※できるだけマルチ幅60cmを確保するように！

狭いと支柱立て/植付の際、苦労します

□ナス/ししとう/ピーマン列(⑤列目)

・施肥：野菜名人、アズミン、石灰 各1杯(約200g)

・穴なしマルチをひく

4/18まで

□空芯菜/モロヘイヤ(⑧列目)

・施肥：野菜名人、石灰、アツミン 各1杯(約200g)

・穴なしマルチをひく

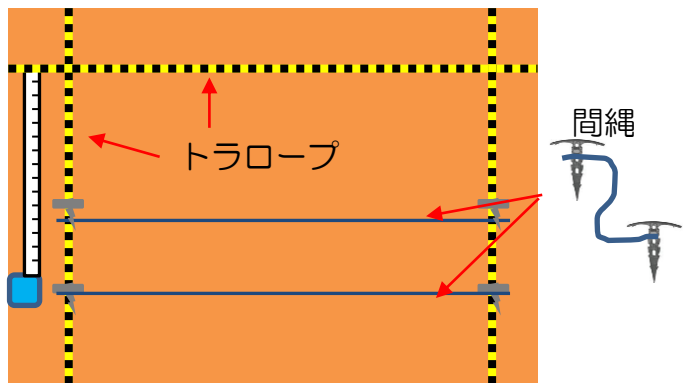
□イモ類・ズッキーニ(⑨列目)

・施肥：野菜名人、石灰、アツミン 各1杯(約200g)

・穴なしマルチをひく

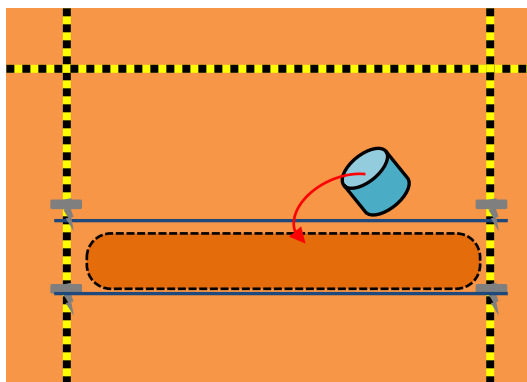
4/25まで

①

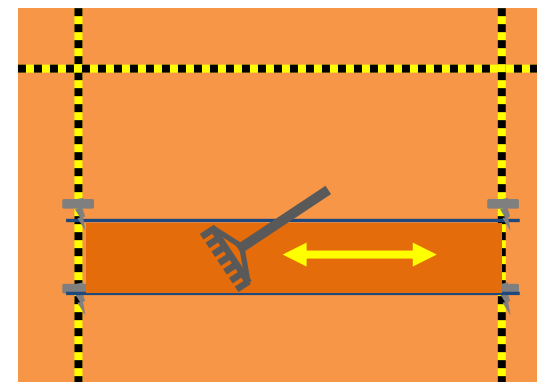


トラロープを基準に、寸法をはかります
うねの両端に間縄をひきます

②

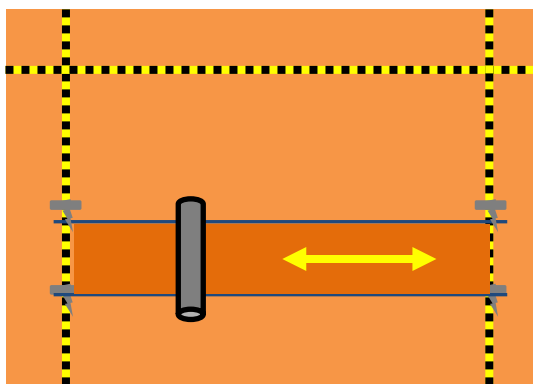


間縄の間に肥料をまきます



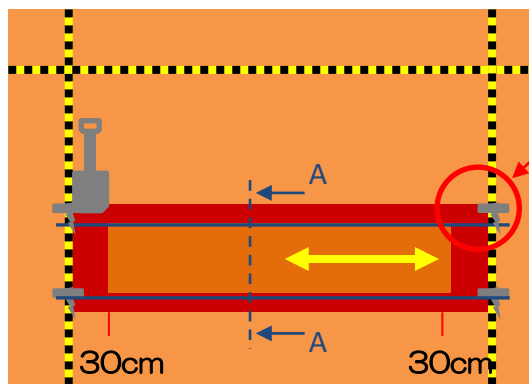
レーキ等で肥料をなじませます

③



塩ビパイプで表面を平らにします
※表面が凸凹していると
マルチに水が溜まります

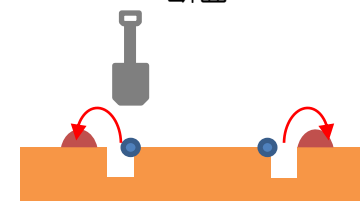
④



間縄周囲に溝を掘ります。慣れない方は
角スコップがお勧めです
通路分30cmを確保ください
※角スコップ幅が30cmの目安です

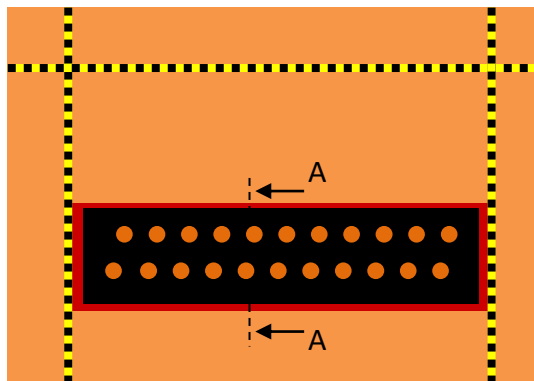
特に4隅をしっかりと掘ります

断面A

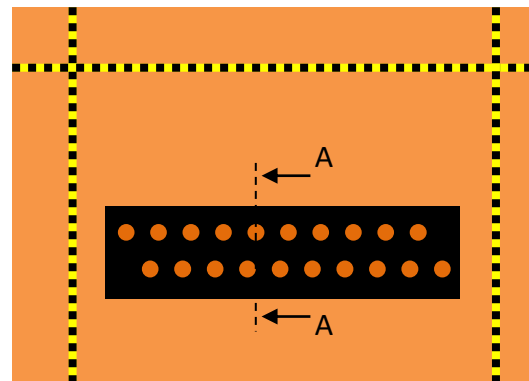
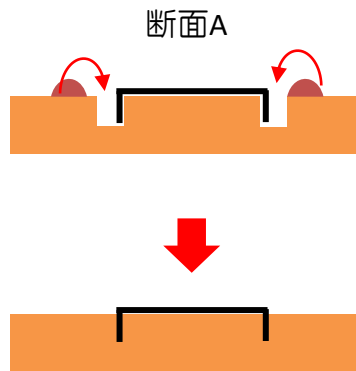


土は間縄の外側によけます

⑤



間縄を外し、マルチをかぶせます

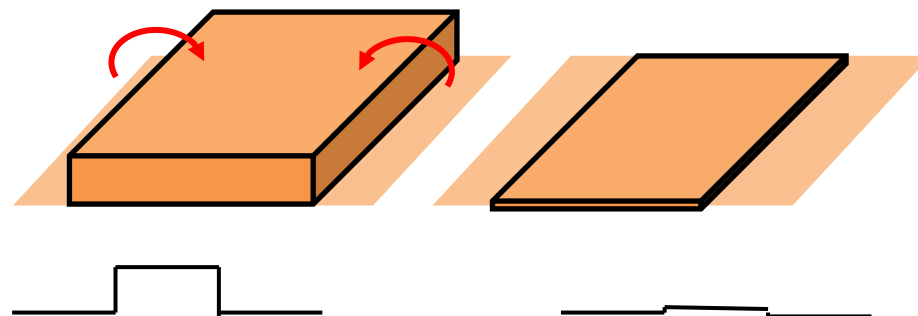


マルチにしわが入らないよう、左右に引っ張りながら溝に土を埋め込みます

補足

うね(畝)の作り方は大きく分けて、高うね/平うねがあります。当農園は水はけがよいため、平うねで行っております。無理に高うねにする必要はありません。本資料でおわかりの通り、当農園では高うねの作り方の指導は行っていません

希望する方は高うねにしても構いませんが、マルチ側面の埋め込みが甘いと風で飛びやすくなるので、注意してください。



高うね

土を10~15cmくらい高く盛り上げる

平うね

地面の高さのまま
※外周は通路として踏み固められるため、見た目3~5cmくらい高くなる

「各種肥料について」

本資料はHPのみ掲載です

第一回講習では「畑づくり」では堆肥(農園側で実施済み)、「ジャガイモ植え」では配合肥料撒きといった作業があります。同じように感じるかもしれませんが、それぞれ目的が異なります。

「畑づくり」の堆肥/石灰撒きは、**土壌を調整する**ことが主な目的です。

- 堆肥：土の保肥性/保水性/通気性等を高めたり、土中の微生物の活動を活発にすることで、土中の環境を良くする優れた「土壌改良材」としての働きをします。
- 石灰：土壌酸度を酸性→アルカリ性に変え、野菜が育ちやすいような酸度に調整します。

「ジャガイモ植え」の配合肥料撒きは、**野菜が成長するのに必要な栄養分を与える**ことが目的です。野菜に必要な三要素(窒素：N、リン：P、カリ：K)を与えます。

どちらも畑の状態により適正量が異なるため、本講習で示した量がそのまま他の畑(市民農園等)で使えるというわけではありません。ご注意ください

「マルチとは」

マルチとは正式には「マルチング」と言い、土の表面をポリフィルム等で覆う作業を意味します。マルチを行う効果は、以下の通りです。

- ①地温を調整する
- ②土壌水分を保持する(乾燥防止)
- ③雑草の防除
- ④土の跳ね返りを防ぐ(病害防除)

色も、黒/透明/シルバー等があり、それぞれ以下の効果が優れているという特徴があります。

黒：雑草防除 / 透明：地温調整 / シルバー：アブラムシ防除

当農園では雑草防除の効果が高い、黒のポリフィルムを多く使用していますが、トマト/ナスを植えるところは、アブラムシ防除のため、銀(シルバー)マルチを使用する場合があります。

ちなみに、マルチ9230の「9230」とは、マルチの種類を示しており、9→95cm幅/2→2列/30→30cm間隔を意味しております。カブ等で使う9415は、95cm幅/4列/15cmとなります。

当講習では、マルチ→穴なしマルチ、マルチ9×××→穴ありマルチと呼びます。2種類以上のマルチ引きがある場合、間違えないように注意してください。